

総合計画審議会の審議状況について（第4回袋井市総合計画審議会 議事要旨）

政策分野別(危機管理 交通安全 防犯 協働 地域 歴史 文化 国際交流 共生)の現状や課題認識について [まとめ]

【開催概要】

第4回袋井市総合計画審議会を、以下の通り開催しました。第4回の意見交換では、各政策分野のSWOT分析について、各委員の専門的見地からご意見を頂きました。

日時	令和6年10月9日(水)18時30分～20時30分
場所	袋井新産業会館キラット あきはホール
内容	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1) 各政策の現状と課題認識等の整理 (SWOT分析) 危機管理・交通安全・防犯・協働・地域・歴史・文化・国際交流・共生分野 (2) ショートプレゼン (3) 意見交換 (4) グループ発表・まとめ 4 事務連絡 5 閉会

【政策5 危機管理 交通安全 防犯】 危機管理

Strength(強み)	Weakness(弱み)
<ul style="list-style-type: none"> 防潮堤などのハード対策が進んでいる SNSを活用した人と繋がり顔の見える関係性もある 治水対策(雨水ポンプ場、河川改修等)の事業が加速している 幼少期から防災教育を推進している 	<ul style="list-style-type: none"> 内水氾濫へのハード対策が難しい 消防団員の確保対策が弱い 市街地を含む地域の大部分が浸水想定エリアとなっている 高齢者(65歳以上)世帯が暮らす住宅の防火対策が低調
<ul style="list-style-type: none"> 非常食等の防災用品の進化 「自助」の重要性が浸透 水災害激甚化を受けて「流域治水」が推進 出火件数と火災死者数が10年で8割に減少 耐震性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 災害への危機意識の低下 「家具の固定」実施率40.6%で頭打ち、地区防災計画策定は県内29地区 大雨の年間発生回数が増加中 火災の死者の大半が高齢者 水道施設の耐震化は依然として低い
Opportunity(好機)	Threat(脅威)

【政策5 危機管理 交通安全 防犯】 交通安全 防犯

Strength(強み)	Weakness(弱み)
<ul style="list-style-type: none"> 地域に根付いたボランティア組織による交通安全啓発活動の推進 警察や交通安全協会等と連携した交通安全施策が推進されている 地域による防犯活動が積極的に取り組まれている 	<ul style="list-style-type: none"> 地域による防犯活動の推進 交通事故防止に向けた行政のソフト・ハード対策は限界 見守り活動や防犯パトロール以外の活動があまりできていない
<ul style="list-style-type: none"> 安全運転サポート車の普及や歩行者等の安全な通行空間の整備が進む 令和4年に「世界一安全な日本」創造戦略2022が閣議決定され、全国で安全・安心なまちづくりの取組が推進 	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故死者数は、平成27年以來8年ぶりに増加。うち、65歳以上の者の割合は、5割を超える高い水準 刑法犯認知件数は、令和3年に戦後最少を迎えたものの、2年連続で前年比増
Opportunity(好機)	Threat(脅威)

【政策6 協働 地域 歴史 文化 国際交流 共生】 協働 地域

Strength(強み)	Weakness(弱み)
<ul style="list-style-type: none"> 市民活動団体が多数存在 自治会活動が充実している 自治会連合会長への連絡や会議資料等の配付がデジタル化 身の丈連携で叶える暮らし良さの実現に向けた官民共創の取組(学校を接点とした共創の取組の試行など) 	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動団体とのマッチングが出来ていない 自治会役員の担い手不足や負担感の増加 各地域のまちづくり協議会からの情報発信が不足(発信の工夫が足りない)
<ul style="list-style-type: none"> 地域活動のデジタル化を推進することで、新たなサービスや価値を地域住民に提供できるようにする好事例もある 地域担当職員制度を導入している団体も相当数あり、地域おこし協力隊など外部人材を活用している事例もある 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会等は、加入率の低下 担い手不足等により、活動の持続可能性が低下 防災や高齢者・子どもの見守り、居場所づくり等、増加する地域社会のニーズに対して十分応えられていない
Opportunity(好機)	Threat(脅威)

【政策6 協働 地域 歴史 文化 国際交流 共生】 歴史 文化

Strength(強み)	Weakness(弱み)
<ul style="list-style-type: none"> 袋井は祭りに積極的。 お祭り等を活用したこどもへの教育も有用 貴重な文化財を次代に継承する取り組みをしている 誰もが日頃の生活の中で文化芸術に触れることができる環境づくりを進めている 	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻やモニュメントがまちづくりに十分活かされていない 文化と学習のつながりが薄い 文化財を維持していくことが困難 文化・芸術に対する市民の興味・関心が低い 社会教育学級・講座の参加者が減少
<ul style="list-style-type: none"> 人生100年時代を豊かに生きるための生涯学習・リカレント教育が推進されている 文化財を保護するだけでなく、国や県は、活用にも今後注力する方針を示している 	<ul style="list-style-type: none"> 社会人になってからの自発的な学びをする人は、海外に比べて少ない 文化振興や伝統芸能、文化財保護の担い手が不足。生活文化等団体会員数の減少
Opportunity(好機)	Threat(脅威)

【政策6 協働 地域 歴史 文化 国際交流 共生】 国際交流 共生

Strength(強み)	Weakness(弱み)
<ul style="list-style-type: none"> 人柄や仕事、地形など外国人に選ばれるまち 外国人と打ち解けやすい風土 静岡県袋井市の外国人率は県内市平均(2.9%)の倍以上で6.4% 国際交流事業と多文化共生事業を展開 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人との言葉の壁 永住者と定住者が外国人市民の約6割を占めており、定住化の促進が求められる 多国籍化が進み、多言語対応に限界が生じている 外国人の日本人に対する親しみは73.5%、日本人の外国人に対する親しみは42.9%
<ul style="list-style-type: none"> 特定技能制度(2019年)により、外国人の定住が可能となり、外国人人口が増えている 外国人の定住が増加しているため「架け橋人材」の育成が大切 「多文化共生条例」を策定する自治体も出てきている 	<ul style="list-style-type: none"> 世界的にも人口減少していくため、海外人の獲得戦略と地域アイデンティティを早期に獲得できるカリキュラムの充実 一部の外国人は日本語や社会制度の理解不足で生活満足度が低い
Opportunity(好機)	Threat(脅威)

(注)この資料は、グループディスカッションにおけるご発言やメモのほか、後日、各委員から提出された補足意見や参考資料などをもとに要旨を整理したものです。

政策分野別(危機管理 交通安全 防犯 協働 地域 歴史 文化 国際交流 共生)の現状や課題認識について [グループディスカッション]

グループ別の意見交換結果 (Aチーム&Bチーム)

[Aチーム] 危機管理

Strength(強み)	Weakness(弱み)
<ul style="list-style-type: none"> ● ハード対策 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 12mの津波を防ぐ防潮堤整備が進んでいる R7に完成 ✓ 自衛隊地域事務所がある(永楽町) ✓ 住宅の耐震化。災害に強い家が多い ✓ 消防と一体になった危機管理センター ✓ 土砂崩れが起きた際に、農政課から国の連携が早い ● 人のつながりがある <ul style="list-style-type: none"> ✓ 顔がわかる関係性 ✓ 土砂崩れが起きた際に、SNSを有効に使えた ✓ 災害時の対応が速い。SNSの力 ● 防災用品の進化 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 美味しい非常食が増えた 	<ul style="list-style-type: none"> ● 内水氾濫へのハード対策が難しい <ul style="list-style-type: none"> ✓ 浸水エリアが多いが情報がわかりにくい ✓ 内水氾濫がさけられない ✓ 内水 ハードの面での対応が難しい ✓ 短時間豪雨への対応が不安(道路の浸水) ● 人不足対策が弱い <ul style="list-style-type: none"> ✓ 消防団が8年間で600人から469人に減少 ✓ 火災が減り、消防団の経験値が低下 ✓ 昔のような消防団の活動は？ ✓ 面倒なことは人任せの風習 ● 危機意識の低下 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 水を多く使用していることを自覚していない ✓ 防災訓練が形式的になっている ✓ デジタル化に依存している
Opportunity(好機)	Threat(脅威)

[Bチーム] 協働 地域

Strength(強み)	Weakness(弱み)
<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル化で労力減 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 新しい住宅団地では、デジタル技術を活用した自治会運営の展開に期待 ✓ デジタル化×自治会活動で担い手不足の解消や負担感の低減が期待できる ● 実はもっと活動してもらえる団体が地域にあるかも... <マッチング> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 市民活動団体が多数存在している「ふらっと」でその存在を知った ● 学校×地域 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 高校生の法多山でのプロジェクションマッピングなど、学生の力の活用 ✓ コミュニティセンターの行事に中学生がボランティアに行き、交流ができています ● その他意見 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 自治会活動が充実している ✓ リタイア層、シニア層は地域に貢献したい ✓ 連合会長・自治会長が民間での経験などを活かし、しっかりしている ✓ 通訳がいるため、診療所の初診患者の半分が外国人(ブラジル人) ✓ まちづくり協議会は活発にされている ✓ 市内のインフルエンサーが国内外への発信をしているのが、袋井の特色 ✓ 自治会役員がまっぴりの中老・青年などで享祿を得やすい ✓ お祭りは顔の見える関係を築く 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自治会活動のデジタル化を行政がどこまで担うか ✓ 地域での会合では、紙を使って話し合うことが多いため自治会の負担が多い ✓ 通訳が少ない ✓ 「ふらっと」を知りませんでした ✓ 活動団体の状況を知らない ✓ 同じような活動団体は人手不足 ✓ 学校がカギとなるが、カリキュラムの制約など柔軟な連携が難しい ✓ 自治会での若手の活用が少ない ● その他意見 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 自治会に入っていない人が増えている(自治会などの繋がりが強い反面、新たに加わりにくい) ✓ 自治会活動の継承(持続性) ✓ 子ども行事などに子どもいなくても参加しなければいけない ✓ 地域によって活動の温度差がある ✓ PTA役員は子どもが減っても役員数は減らない ✓ 個人情報の取り扱いが活動を妨げている
Opportunity(好機)	Threat(脅威)

有識者によるショートプレゼンほか(協働 地域 / 国際交流 共生)

ショートプレゼン:北井氏
(輝く“ふくろい”まち・ひと・しごと創生会議メンバー)
(三菱総合研究所 主席研究員)
袋井市における官民共創の取組と次期総合計画への視点

ショートプレゼン:高畑委員
(静岡県立大学 教授)
袋井市における外国人の増加と多文化共生

政策分野別(危機管理 交通安全 防犯 協働 地域 歴史 文化 国際交流 共生)の現状や課題認識について [グループディスカッション]

グループ別の意見交換結果 (Cチーム&Webチーム)

[Cチーム] 歴史 文化

Strength(強み)	Weakness(弱み)
<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル化で労力減 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 新しい住宅団地では、デジタル化を活用した自治会活動に期待 ✓ デジタル化×自治会活動で担い手不足の解消や負担の低減に期待 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ デジタル化をどの役員まで広げるか ✓ 地域での会合では、紙に落としこんで話しあうことが多いため、自治会での負担が増える
<ul style="list-style-type: none"> ● 祭り等を活用したこども教育 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 袋井はお祭りに積極的 ✓ 運動会でミニ神輿 ✓ 祭りのやり方を子どもが考える ✓ 歴史・文化が成績に関係すると良い? ✓ YouTube等のデジタルの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ お祭りが文化になっていないが、コミュニティの形成には役立っている ✓ 文化と学習のつながりが薄いようです → 地域を知ることが成績に直結しない ✓ 地域の歴史の教育の充実
<ul style="list-style-type: none"> ● その他意見 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域の団体の取組がある ✓ 語り部などのソフト面を活用 ✓ 生涯学習講座の充実 ✓ 芸術の取組を進めるのはどう? ✓ 新しい芸術家の発掘 ✓ 外国人が興味をもつ歴史にヒントがある 	<ul style="list-style-type: none"> ● その他意見 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 生涯学習とは? ✓ 文化と歴史のつながりと教育 ✓ 文化財に興味がない、知らない → 文化財が景観に紛れている ✓ 社会教育の講座の価値はもっと高められるのではないかと ✓ 図書館、博物館、美術館が必要 ✓ 知的な交流の空間・場が必要 ✓ 市立図書館の活用促進にデジタル化は有効ではないか
<ul style="list-style-type: none"> ● その他意見 <ul style="list-style-type: none"> ✓ デジタル化によって、新しいアーティストの発見できる可能性 ✓ 多文化共生をまちの好機に 	<ul style="list-style-type: none"> ● その他意見 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 社会人の自発的学びは海外より少ない? → どういう基準ですか? ✓ 担い手不足 → 団体結合 ✓ 施設・設備は費用・専門家が必要?
Opportunity(好機)	Threat(脅威)

[Webチーム] 国際交流 共生

Strength(強み)	Weakness(弱み)
<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人に選ばれるまち (人柄・仕事・地形) <ul style="list-style-type: none"> ✓ 最も消費が高い生産人口が縮減することによって、国内人口の有効需要(所得の裏付けのある消費需要)の縮減を止めるという観点で、生産人口としての外国人が増加し、定着もあるというのは非常に大きな強み ✓ 外国人を多数雇用する事業所がある ✓ 地形が平坦で自転車移動が容易 ✓ 外国人に慣れている人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ● 言葉の壁 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 介護現場では、外国人に対する細かいコミュニケーションが必要 (日本語が得意・不得意な人様々)
<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人と打ち解けやすい人柄・風土 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 子どもたちは、日本人・外国人関係なく交流がある ✓ 外国人労働者が、日本人労働者とすぐ打ち解けるケースがある(温和な人が多い、袋井ならではの風土によるものではないか?) ✓ 工場内では、意外と言葉の壁を耳にすることが少ない?(日本で長く働く外国人が多くなってきている) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人の組織化 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 人口減少社会において、最も重要な社会資本は“高度に組織化された生産年齢人口”である。 ✓ 人口が高度に組織化されるという事は生産と再分配がスムーズに行われ、経済が成長することを指す。 ✓ これまでの議論から袋井市は高度な組織化に至る前段階に留まっている印象があり、何か手法を考える必要があるのではないか
<ul style="list-style-type: none"> ● その他意見 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 外国人が多いことは、労働力という点で貴重な存在 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域アイデンティティを獲得できるカリキュラムの充実 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 海外からの労働人口は奪い合い。 ✓ フィリピンの介護士は英語圏や中国に流れ、近年は円安もあり、高度人材もなかなか入ってこなくなった。 ✓ 世界的に人口は減少し、2100年にはアフリカ人口も減少する。 ✓ 海外から来てくれる人も減少する。治安が良い、住みやすい、日本がすぐに覚えられるなど“静岡人”になるためのカリキュラムをデジタルも活用して充実させ、流入人口を増やす努力が必要ではないでしょうか。
Opportunity(好機)	Threat(脅威)



Webチーム:国際交流 共生



Aチーム:危機管理



Bチーム:協働 地域



Cチーム:歴史 文化

政策分野別(危機管理 交通安全 防犯 協働 地域 歴史 文化 国際交流 共生)の現状や課題認識について [グループディスカッション]

グループ別の意見交換の補足意見ほか

交通安全 防犯		危機管理	
Strength(強み)	Weakness(弱み)	Strength(強み)	Weakness(弱み)
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域に根付いたボランティア組織による交通安全啓発活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ✓ スクールガードボランティアによる子どもの見守り ✓ 見守りグループの存在 ✓ 進んでも見守りをする市民が多い ● 警察・交通安全協会等と連携した交通安全施策の推進 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 自治会ごとの交通安全運動 ✓ 小さいころからの交通安全教室 ✓ 警察署が中心都にあり、犯罪抑止力の意識につながる ✓ 児童生徒がヘルメットをかぶる文化あり ● 地域による防犯活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 自治会組織の活動が多い ✓ 都市基盤整備(区画・整理)は先進のまちで道路が整っている ✓ 防犯情報をメローネット等ですぐに把握することができる ✓ 犯罪被害者に対し支援条例がある ● 安全運転サポート車の普及や歩行者等の安全な通行空間の整備が進む <ul style="list-style-type: none"> ✓ 車輛の安全性能の高度化 ✓ 自動運転の普及の未来 ● 令和4年に「世界一安全な日本」創造戦略2022が閣議決定され、全国で安全・安心なまちづくりの取組が推進 <ul style="list-style-type: none"> ✓ デジタル(通信)活用技術の向上 ✓ 防犯カメラが増え、犯罪の抑止力につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフスタイルの変化に伴う交通安全啓発活動への参加意識低下 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 見守りボランティアの高齢化 ✓ 高齢者免許返納率が低調? ✓ 高校生のヘルメット着用率が低い ● 交通事故防止に向けた行政でのソフト・ハード対策の限界 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 通学路の安全対策が十分でない ✓ 道路整備の予算が十分確保できない ✓ 狭い道路が多い ✓ 自転車を安全に通行するための通行レーンの不足 ● 見守り活動や防犯パトロール以外の活動があまりできていない <ul style="list-style-type: none"> ✓ 夜間での道路等の安全性 ✓ 公共交通が脆弱 ✓ 見守りによる安全安心と子どもたちの安全安心の意識や行動する力の育成のバランスが難しい ● 交通事故死者数は、平成27年以来8年ぶりに増加。うち、65歳以上の者の割合は、5割を超える高い水準 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 高齢ドライバーのアクセル・ハンドル誤操作による事故の増加 ● 刑法犯認知件数は、令和3年に戦後最少を迎えたものの、2年連続で前年比増 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 県内の刑法犯認知件数もR5は増加している 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自主防災隊の組織率は100% ● 地域とともに防災訓練や防災知識の普及、啓発活動を行っている <ul style="list-style-type: none"> ✓ 防災意識の高い若者の存在 ✓ 地域の組織が充実 ● 防潮堤や治水対策を推進している <ul style="list-style-type: none"> ✓ 防潮堤の整備が進んでいる ✓ ポンプ場の建設や河川改修などを進めている ● 幼少期から防災教育の普及啓発を推進している <ul style="list-style-type: none"> ✓ 小学生の社会見学時の教育 ✓ 花火教室にて防火などの教育も実施(市内幼稚園、こども園対象) ● 導水管と送水管は耐震化が完了 ● 大規模地震発生時に応急給水ができる体制を確保している。また、市内の井戸と県からの受水による2系統の水源により、安定的な水の供給を行う <ul style="list-style-type: none"> ✓ 震災復興行動計画が策定されている ✓ 道路冠水センサーが設置されている ● 高度処理技術で水道水の異臭被害が減少 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 水道耐震化への国の取組が進んでいる ● その他意見 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 国土強靱化対策が進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市域の殆どが軟弱地盤 ● 大規模地震発生時には多くの建物が倒壊すると想定されている ● 自助による対策が重要であるが、家庭内備蓄や家具固定等、家庭内減災に取り組んでいる市民の割合が伸び悩んでいる <ul style="list-style-type: none"> ✓ 川が多い(橋が多い) ✓ 消防団員の減少に対応し自助の体制整備が必要 ● 市街地を含む市域の大部分が浸水想定エリアとなっている <ul style="list-style-type: none"> ✓ 河川に沿った平坦な地形が多く洪水等に弱い ● 高齢者(65歳以上)世帯が暮らす住宅の防火対策が低調 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 高齢者は火災による死亡率が高い ● 基幹管路の耐震化や管路更新率が計画どおり進んでいない。 ● 技術職員の確保が困難になり、人材育成と技術の継承が課題 <ul style="list-style-type: none"> ✓ ブロック塀の耐震化。撤去が滞っている。 ● 巨大地震発生のリスク <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地震は予知できない ✓ 南海トラフ巨大地震の発生確率は30年以内で80%
Opportunity(好機)	Threat(脅威)	Opportunity(好機)	Threat(脅威)